



# にじのはし幼稚園

## 園だより

平成29年2月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 酒井 正美

うみがきらきらひかっている みんなげんきにあそんでる  
さむくたってへっちゃらだ みんながたのしいようちえん

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言いますが、3学期の教育日数はあと35日となりました。5歳児学年は32日です。立春を迎えますが今年は例年より梅の開花が早く、春の訪れをより実感しています。子供たちが植えたチューリップの球根も、しっかりと芽を伸ばしています。

先日、「心のストレッチ」という東京都教育委員会主催の講演会に参加する機会がありました。東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会がリーダー研修会として委託されたものであることから、港区のPTAの皆さんからも多数の参加がありました。声優の佐久間レイさん、ピアニストの佐田詠夢さんによるお話、ピアノ演奏と歌、朗読劇を織り交ぜての講演でした。「心が固くなっていませんか。心を柔らかくしておくで怪我をしません。」と、日常の家庭でよくあるような場面からの話に、会場一杯のほとんどが子育て真っ最中の保護者の皆さんは聞き入っていました。

その中の一つが、「星の光作戦」。星はたとえ無くなるろうとも、何年かけても発した光を地球の私たちに届けます。毎日思ってもらふこと、毎日作ってもらふ食事は、子どもたちにとっては当たり前のことかもしれません。一人暮らしを始めた学生が「自分は親と一緒に暮らしていたんだ。」「毎日ご飯を作ってもらっていたんだ。」と気付いたという話。こうやって時間が経ってやっと届くこともあるけれど、必ず届くということと、光を発しなければ届かないというお話でした。

もう一つ、「子どもは大人のフィルターを通して学ぶ」ということ。花が咲いている横を通るとき、何も言わずに通ると、「きれいな花」と大人が気付いて伝えることで子どもの学びが変わります。同じように、子どもが喧嘩をした時、「あの子とはもう遊ぶのやめなさい。」と言ってしまうのと、「嫌だったね、でも〇〇ちゃんも嫌だったのかもしれないよ。」と話すのでは、学びが大きく変わります。物や事にどう大人がかかわるかで、子どもの学びは変わるというお話でした。とは言っても、いつも完璧でいようなどとは決して思わず、良くない自分、情けない自分も許しながら、こうありたい自分との心の振り子を自由に振りながら生きましよう、とお話をされていました。

講演の一部を紹介させていただきましたが、リーダーとして参加して下さった本園の保護者の方々からも伝えていただく機会を設けたいと相談しているところです。

さて、2月は早く足早に過ぎていくことと思いますが、今年度の子どもたちの成長をしっかりと振り返り、子どもたち自身にも「大きくなった自分」を実感して欲しいと考えています。

今では当たり前になっていることも、4月には「大変」なことだったな、ということがきっとあるはず。日々の積み重ねで身に付いたこと、できるようになったことなどを振り返り、幼稚園や家庭で、「お兄さん、お姉さんになったね。」と成長や頑張りを認め一緒に喜んであげましよう。子ども自身が成長の喜びを感じ、自信や自覚をもつことは次のステップ、次の学年につながっていきます。そんな2月にしていきたいと願っています。

